一隅を照らす運動総本部だより No.50

一隅を照らす運動ホームページアドレス
http://ichigu.net

緊急救援募金の御礼と御報告

一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」が窓口となり実施いたしました「平成三十年七月西日本豪雨災害」、「平成三十年台風二十一号暴風災害」、「平成三十年北海道胆振東部地震災害」の緊急救援募金につきまして、ご協力をいただきました皆さまに厚く御礼申し上げます。皆さまよりお預かりいたしました浄財は、関係各所に寄託いたしております。各災害に対する緊急救援募金の詳細につきまして次の通りご報告を申し上げます。

平成三十年七月西日本豪雨災害義援金

平成三十年六月二十八日から七月八日にかけて発生した西日本を中心とする広範囲での豪雨災害に対して、平成三十年七月九日から八月三十一日の期間にて緊急救援募金を実施、平成三十年七月西日本豪雨災害義援金として２８９８万６９６９円が寄せられた。

◎主な寄託先

広島県	６００万円
岡山県	５００万円
愛媛県	５００万円
福岡県	３００万円
京都府	３００万円
岡山教区災害対策本部	１００万円
九州西教区災害対策本部	１００万円
天台聲明兵庫社会奉仕會	１００万円
認定特定非営利活動法人ＡＭＤＡ	２００万円
日本赤十字社	１９８万６９６９円

広島県健康福祉局地域包括ケア推進部長
桜井勝広氏に寄託（10月31日　於：広島県庁）

岡山県副知事　菊池善信氏に寄託
（10月31日　於：岡山県庁）

愛媛県副知事　神野一仁氏に寄託
（10月31日　於：愛媛県庁）

京都府知事　西脇隆俊氏に寄託
（11月１日　於：京都府庁）

福岡県知事　小川洋氏に寄託
（９月21日　於：福岡県庁）

九州西教区災害対策本部　嘉瀬慶文師に寄託
（11月７日　於：天台宗務庁）

岡山教区災害対策本部　葉上観行師に寄託
（10月10日　於：天台宗務庁）

認定特定非営利活動法人ＡＭＤＡ理事
難波妙氏に寄託（10月31日　於：ＡＭＤＡ事務所）

天台聲明兵庫社会奉仕會　雲井雄善師に寄託
（９月13日　於：天台宗務庁）

平成三十年台風二十一号暴風災害義援金
平成三十年北海道胆振東部地震災害義援金

平成三十年八月二十八日から九月四日にかけて発生した近畿地方を中心とする暴風災害、並びに平成三十年九月六日に発生した北海道胆振地方中東部を震源とする地震災害に対して、平成三十年九月十二日から十月三十一日の期間にて緊急救援募金を併せて実施、平成三十年台風二十一号暴風災害義援金として467万7136円、平成三十年北海道胆振東部地震災害義援金として594万0086円、地球救援事務局に配分を委任された義援金として1093万9067円が寄せられた。

◎主な寄託先

平成三十年台風二十一号暴風災害
滋賀県　500万円
平成三十年北海道胆振東部地震災害
北海道　1500万円
地球救援事業救援協力金　155万6289円

北海道副知事　阿部啓二氏に寄託
（1月25日　於：北海道庁）

滋賀県知事　三日月大造氏に寄託
（2月1日　於：滋賀県庁）

タイ・スタディーツアーを実施

一隅を照らす運動総本部では、平成三十年十一月十五日～二十日の日程で、比叡山高等学校と駒込高等学校の生徒八名を引率し、タイ王国（ドゥアン・プラティープ財団）を訪問するスタディーツアーを実施した。

「生き直しの学校」チュンポーン校での修了式（11月18日）

このスタディーツアーは昨年度に引き続き三回目の開催となる。「一隅を照らす」人材を育成することを目的に、アジアの貧困地域の現状に触れ、日本との生活環境の違いや学習しただけでは得ることのできない経験を積み、見聞を広めてもらうために実施した。

十六日には、ドゥアン・プラティープ財団「生き直しの学校」（チュンポーン校）を訪問し、施設の子どもたちから歓迎を受けた。この施設には三日間滞在し、日本の高校生とタイの子どもたちが共同作業やスポーツを通して、タイ語の指差し会話本やジェスチャーを用いるなど積極的に交流を行った。最初は着いたばかりということもあり緊張気味であったが、次第に環境と子どもたちに打ち解けていく様子が窺えた。他にも、将来の夢や普段の生活について通訳を交えて意見交換するなど、その違いや共通点などに触れる機会となった。また、現地の小中学校を訪問し、校内や授業の様子を見学するなど多くの事を学ぶ貴重な機会となった。

十九日には、ドゥアン・プラティープ財団の事務所（バンコク）を訪問した。事務所のあるクロントイ地区のスラムを実際に視察し、財団のスタッフからスラム地区が抱える問題等の説明を受け、日本との違いに直接触れる機会となった。

一隅を照らす運動総本部では、来年度以降もこのツアーの実施を検討しており、今回の改善点などを充分に精査し、より充実した内容のスタディーツアーとなるよう努めたい。

「タイ・スタディーツアー」

比叡山高校　一年　中江咲月

タイに着いて一日目、お昼ごろにチュンポーン校に着き昼食を済ませてから、まずはバーンタップマイ小中学校を訪問しました。そこで印象に残ったのは小学校一年生が英語を学んでいたことです。日本ではもう少し後からだと思うので驚きました。次に、クラトンの製作をしました。台にバナナの葉を巻いたり、庭に咲いている花を摘んで飾ったりしました。完成したものは、夕食の後にチュンポーン校の周りにある湖に浮かべて流しました。子どもたちの長太鼓と火吹き演技を観賞してこの日は就寝しました。

二日目、朝は六時から体操をしました。その後、鶏や豚の餌やり、落ち葉拾いをしました。朝食を食べてイスとりゲームなどをし、アブラヤシ農園に移動しました。そこでは、肥料を撒きました。すごく広い敷地で、撒き終わるころにはみんな汗だくになっていました。チュンポーン校に戻って、Tシャツ染め体験をしました。それぞれに仲の良い子ができて、私の相方はフィム君でした。言葉は通じないけど、身振り手振りで言いたいことが伝わるようなかんじでした。昼食の後ＢＢＱ用の食材を市場に買いに行きました。えびやイカが大量に売っていました。チュンポーン校に戻って、タイの伝統行事であるソンクランを体験しました。ソンクランは水かけ祭りみたいなもので、ホースや大きいバケツなどを使い水をかけ合って全員びしょ濡れになりました。着替えをした後は、ＢＢＱをしながらバレー、サッカー、縄跳びなどを一緒にして遊びました。ムエタイ、ダンスを観賞した後今度は私たちからの出し物として、鬼ごっこをしました。水風船をぶつけ合う鬼ごっこや氷鬼などをして、とても盛り上がりました。最後に全員で「三六五日」を歌ってこの日は就寝しました。

三日目、この日も朝六時から体操をして鶏の卵を採ったり、餌をあげたりしました。朝食まで時間があったので施設の周りを案内してもらいながら散歩をしました。その後はドリアン苗木植樹作業と、アブラヤシの実を使ったキーホルダー作りをしました。ドリアンは七年後に収穫できるそうで、大きく成長してくれるといいなと思いました。

キーホルダー作りではアブラヤシの実を自分で選んで穴をあけてもらい、絵の具でペイントしました。昼食を食べて、チュンポーン校の生徒と意見交換をしました。学校生活のこと、互いの国のことなどについて聞き合いました。意見交換を終え、写真撮影をしてチュンポーン校を後にしました。

四日目は、バンコクにあるプラティープ財団の本部の訪問とスラム街視察をしました。財団ができるまでの話を聞き、幼稚園を訪問し、少しだけ遊びました。一緒に踊ったり、「だるまさんがころんだ」をしました。とても楽しんでくれて嬉しかったです。その後にスラム街を見て回りました。スラムに住んでいる人たちは、いつかそこを出ていかなくてはならないことを知ってとても胸が痛くなりました。彼らが安心して暮らせる場所が見つかって欲しいと思いました。

「スタディーツアー感想文」

比叡山高校　一年　大藤愛希穂

私がこのスタディーツアーに参加し、最も印象に残ったことは、「生き直しの学校」チュンポーン校やバーンタップマイ小中学校などで見た子どもたちの「笑顔」です。人の笑顔は普段の生活の中でも見ることができると思います。しかし、彼らの笑顔はとても輝いていて、今までに見たことのないような笑顔でした。私はその笑顔を見て、彼らにとって今のくらしは幸せなんだろうと思いました。それには、十分な食事を一日に三回できることや、学校に行き学ぶことができていることなど、私にとっては「あたりまえ」なことが大きく関係しているのだと改めて知ることができました。また、私がある笑顔の素敵な子に「なぜ、ずっと笑顔なの」と聞くと、その子は「みんなが静かなときに、自分が笑顔でいることでみんなを元気にすることができるから」というようなことを言ってくれました。そして、私は普段の生活のなかで、笑顔で過ごしている時間はどれくらいあるのだろうと思い、振り返ってみました。すると、私が笑顔で過ごしている時間はほとんどなかったため、自分から誰かのために笑顔で過ごすことは全くと言っていいほどないと思いました。これらのことから、私は笑顔でいるということは、人を元気にするためだけでなく、笑顔を意識することで、自分も明るくなり、今まで以上に楽しく過ごすことが出来るのではないかと考えました。さらに、普段から笑顔でいられるようになるために、少しずつ笑顔でいる時間を増やせるように意識していこうと考えました。

他には、バンコクの「クロントイスラム」を見学できたことがいい経験になりました。なぜなら、普段の生活で「スラム」は遠い存在であり、自分から行くこともないであろう場所だからです。実際に行き、私の記憶に残ったことは、建物や道です。理由は、家が密集していたり、道も狭いだけでなく、水たまりや溝が多くあったり、危険な場所だったからです。また、そのような場所に、たくさんの人が暮らしていることにも驚いたからです。

このように、普段の生活では、遠い存在であり、経験できないようなことをたくさん経験できました。貧困や家庭環境、生活環境の問題などを実際に現地に行き、教えてもらい、自分の目で見たことによって、今まで以上に、これらの問題を身近に感じられました。財団の方から、「私たち高校生にできることは、彼らのような人を知ることや考えることくらいで十分」と聞き、今後は、彼らのような人についてもっと詳しく知り、多くの人に知ってもらえるようにもしたいと考えました。このスタディーツアーに参加でき、貴重な経験をさせてくださったことは、私にとって大切な宝物になりました。また、私の夢であり、大きな目標である、国際ボランティア活動に参加するということへの小さな目標達成になりました。

「タイ・スタディーツアーを通して」

比叡山高校　一年　小林真菜

私がタイ・スタディーツアーに応募した理由は、今年の始めに祖母が亡くなったことで、身近な人がいなくなるつらさを知り、親のいない子どもたちはどのような気持ちで生活しているのかを見てみたかったからだ。ツアーに参加することが決まった時、タイへ行けることへの喜びと同時に、犯罪と隣合わせの環境で育ってきた子どもたちと一緒に生活することへの不安で胸がいっぱいになった。しかし、施設を出る頃には私の想像していたものとは百八十度違っていた。

私は生き直しの学校に通う生徒たちとさまざまな作業に取り組んでいく中で気がついたことがある。それはそこにいたタイ人の生徒は皆、私たち日本人とは違う優しさを持ち、気遣いの出来る人ばかりであるということだ。この四日間、彼らの優しさに何度も何度も助けられた。一日目の昼頃に行った燈籠作りの時には、笹の葉をどう使えばよいのかが分からず困っていた私にすぐ気づき、一から細かい部分までジェスチャーをして丁寧に教えてくれた。はさみを使う作業で一人で出来ることも危ないからと言い、私と同じ年くらいのタイの生徒が慣れた手つきで作業を交代してくれたり、燈籠をより美しいものにしようと鮮やかな花を取りに連れていってくれたりもした。また、移動の際には迷ったり、怪我をしないように必ず手を引いてくれたりなど、常に私たちの事を最優先に考え、行動してくれていたように感じる。出会ったばかりであるのに、距離感が近く、接しやすくて、どんな時でも幸せそうに笑う姿を見て、ほっとした気持ちになった。しかし、こんなに笑顔で見つめてくれる彼らの過去を知った途端に胸が苦しくなった。私が友達のように接していたタイ人は親から育児放棄され、ご飯もろくに食べられず、私たちには想像出来ない程のつらいことや思い出したくもないようなひどいことを経験している。悪い環境で生まれ育ち、苦しい生活のストレスや親の影響で幼くして薬物に手を染め、薬物依存にまでなっていた子どもも少なくはない。その苦しい過去を私たちに感じさせないような優しい笑顔や行動に私はとても感動させられた。そんな彼らと過ごしていくうちに言葉は分からないけれど、相手の伝えたいことが分かるようになってきた。施設内での最後の意見交換の時に、彼らは私たちに自分の将来の夢について話してくれた。一人一人が明確な夢を持っていて、過去を振り返ることなく必死にその夢を追いかけようとする姿は輝いて見えた。私たちはその彼らの温かい人柄に触れ、別れの時には自然と涙が溢れてきた。彼らには必ずその夢を叶えてほしいと強く願う。その施設で彼らと過ごした三日間は、伝統的な踊りを見たり、農作業をしたり、生徒たちと思いきり遊んだりなどとテレビでしか見たことのないような体験をすることで、今までに感じたことのない不思議な気持ちになった。

生き直しの学校で生活をしている生徒の多くが幼い頃に住んでいたスラム街にも行った。その地域に入ってすぐ、生ごみのような腐った臭いがした。そこには小さな家が連なって建っていて、地面には数え切れない程のごみが散らかっていた。こんな場所に施設の彼らが住んでいたと知った時、私は言葉が出なかった。彼らの何倍も自由で裕福な暮らしを当たり前のようにしている私は、当たり前のことが当たり前でないという意味を身を持って感じることが出来た。

過去に苦しいことがあっても、挫折しないで笑顔で前を向いて努力することへの大切さを知ることが出来た。決して消えることのない心の深い傷を抱えた彼らと出会い、共に生活出来たことは私を大きく成長させてくれた。帰国してからも彼らと連絡を取った。何年後かに、もう一度彼らに会いに

行きたいと思っている。タイだけでなく、他の国の貧困問題についても知りたいと思うようになった。私は看護師を目指しているが、このタイでの貴重な経験を糧に笑顔でその夢を追いかけていきたい。

「彼らの笑顔と私とスラム」

比叡山高校　二年　神谷日奈子

スラムの人々も生き直しの学校のみんなも、私が想像していた様子とは全く違っていた。教科書でスラム街の写真を見てから私は、スラムは環境が整備されていない、危険な人たちが大勢いる場所なんだという漠然としたイメージを持っていた。だが今回のスタディーツアーはそのイメージを変えてくれた。スラム街の視察に行った時、私たちがかけた挨拶に返してくれない人は一人もいなかった。みんなにこやかに手をあわせて挨拶を返してくれた。その様子に私はとても心が痛んだ。何故この人たちがこんなにも貧しい生活を強いられるのか。その日一日の食べ物にも困る立場に置かれるのだろうか。そんな疑問が尽きずに出てきた。

生き直しの学校の子たちは、タイ語が分からない私となんとかコミュニケーションをとろうと進んで関わってきてくれた。言葉はわからなくても互いが笑顔で接すれば通じ合えることを知った。内気な私も彼らの笑顔と明るさのおかげですぐに打ち解けることが出来た。少しの段差でも、彼らは自分が先に進んで振り向いて手を差し伸べてくれた。農作業の後、慣れない暑さに疲れきった私を見て、自分が飲むよりも先に私に水を渡してくれた。元は厳しい環境に置かれていた子たちなのだということが信じられない程、本当に優しくて明るい子たちばかりだった。

四日間という時間は、タイの現状を全て知るには短すぎる時間だったが私が持つスラムとそこに住む人々のイメージ、そして何より私自身を変えるには充分な時間だったと思う。

私が忘れられないのは生き直しの学校の、ある男の子のことだ。その子は人懐っこくて可愛い男の子だった。活動中に撮ったばかりの写真が映されるスクリーンの前にへばりついて写真を見ている様子がとても微笑ましくて、私は彼の年齢が気になって近くにいた大人に尋ねてみたのだ。

「あの子、十歳なんだ。隣にいる背の大きな子の方が実は年下なんだよ」

その答えに私は頭を何か硬い物で殴られたような衝撃をうけた。私にはもうすぐ十歳になる妹がいるが、どう見てもその男の子は私の妹より頭一つ分以上小さかったのだ。小学校の低学年ぐらいにしか見えなかった。その時ふと私は財団の方が最初にされた説明を思い出した。母体にいた時、母親が麻薬を吸っていた影響や、生まれてから充分に食事を取れなかったせいで身体がうまく育たない子たちがこの学校で生活していると仰っていたことを。その子がそのうちの一人なのかもしれないと感じた。しかし、その考えが正しかった時のショックを想像して、事実を確認することができなかった。

今、私は思う。麻薬の恐ろしさ、後に残る人体への影響や生まれてくる子どもへの害について、もし母親が教育を受けていたなら。せめて最低限の栄養がとれる食事が子どもたちに与えられていたのなら。彼らは、自身のせいではない不公平を被ることはなかったかもしれないのにと。

日本に帰ってきてから約一ヶ月経つが、私はいつも生き直しの学校のみんなのことを思い出す。そしてその時、私の心には彼らの笑顔と一緒に胸がきゅっと締めつけられるような気持ちが溢れてくるのだ。彼らの役に立ちたい。少しでもいいから、彼らがこれから歩いていく道の手助けがしたい。そして、これから生まれてくる彼らと同じような立場にいる子たちのために働きたい。本当に短い時間しか一緒に居られなかった

けど、私と彼らの間には確かな絆を作ることが出来た。お別れの時、辛くて悲しくて泣いてしまった私の手を、指を絡めてぎゅっと握りしめてくれた時、溢れた頬の涙を拭ってくれた時、言葉が無くても、慰めてくれているのを感じて、同じ気持ちでいてくれているのが伝わって、胸がいっぱいになった。その時の気持ちはずっと私の中に住み続けている。この気持ちがあればなんだってできる気がする。いずれ、大人になって何かあの子たちのために役立てることが出来るような知識や力を得ることができたら、もう一度タイに行って、彼らの元で働きたいと思う。

私はまだ、ただの高校生だ。だから今、出来ることなんてないに等しい。きっと今までなら、そう思って何も行動を起こさなかった。だけど私は、そんな自分を変えていきたい。高校生だから、子どもだから何も出来ないと諦めるのではなく、高校生の自分にしか出来ないことをしていきたいと思う。だから今は、この経験を人に伝えることからはじめていきたい。タイに行く前の私と同じように、スラムの現状やそこで問題を抱える人々についてよく知らない人は多いと思う。より多くの人にタイとスラムの現状を知ってもらうことがこの問題を解決する糸口になると私は信じている。この先の未来に生き直しの学校にいる彼らの、笑顔に隠れた暗い部分が消え、タイの、そして世界の貧困に喘ぐ人々がなんの心配もなく穏やかに日々を過ごすことができる日が来ることを私はずっと願い続ける。

「タイ　スタディーツアー感想文」

駒込高校　一年　横山大和

今回のスタディーツアーで私は、一生忘れることのできない貴重な経験をする事が出来ました。教科書だけでは決して分からない大切なものを学ぶことが出来て本当に嬉しかったです。

タイの衛生環境についてです。私たちが滞在した「生き直しチュンポーン校」でのご飯はどれも美味しいタイ料理を出してもらいました。そこにいる生徒たちは、栄養失調の状態で連れてこられた子や家庭の問題で親と離れ離れになって十分に食べられなかった子、麻薬に手を出したりなど様々な理由があります。子どもたちにたくさん食べてもらうことも大切なことなのだなと思いました。しかし食事後の食器の洗い方に驚きました。先ず始めに、桶に水を溜めておいてそれを四つ用意します。始めにプレートに残ったご飯をゴミ箱に捨てます。次に水だけ入れてある桶に入れます。ちなみにこの桶は一人洗い終わったら、次の人も同じ桶で洗います。次に洗剤とスポンジで洗って洗剤をとる水につける、最後にもう一回水につけてお皿洗いの完了です。同じ水を何度も使っていることや、捨てたゴミを犬が食べていること、生活を基本的に裸足で行う所等日本との環境の差や衛生に対する意識の差を感じました。もしかすると改善できない理由があるかもしれませんが、衛生面の管理を違う方法で徹底して安全な環境下の中で過ごして欲しいと思います。

生き直しの学校で生徒とは、身振り手振りと英語で会話や行動を共にしました。ちゃんとした会話でなくてもしっかり意思疎通が出来て嬉しかったです。心残りでもう少しタイ語が出来たらなと思いました。歓迎の音楽やファイヤーショー、灯籠作りと流しなど様々なイベントを通して、深い絆が出来て本当に濃い時間を過ごす事が出来て幸せでした。タイの子どもたちはみんな本当に優しくて、いつも笑顔で楽しそうに日々を過ごしていました。自分たちに大変な事が過去にあったにもかかわらず、どうしてそんなに私たちや他人に優しく出来るのかが不思議でした。話を聞くと「みんなに落ち込んで欲しくなくていつも笑っていて欲しい、だから僕はいつも笑顔で振舞っているんだよ」と答えてくれて感動しまし

た。私もここまでできるように頑張りたいです。スラム街の中の幼稚園では、みんなでダンスをしたり、だるまさんが転んだをしたりみんなで文化交流をしました。タイに行く前までは、私は恥ずかしいから、また単純に出来ないと言うのを理由にして、消極的だったと思います。現地では、ぎこちなかったとは思いますが、子どもたちとダンスをしたり自分から声をかけて遊んだりする事ができるようになりました。次に機会があるのならば百％を出して楽しみたいと思います。

スラム街では、道の両脇にゴミが沢山落ちていて、家もボロボロで驚きました。日雇労働や満足な食事を得る事が出来ない生活をしている人が十五万人近くいるという事実、またいつ立ち退きを迫られてもおかしくない環境下で日々を過ごしている大変な人たち。心のケア、アートセラピー、大人が自立するための講習を開催するなどスラム街の問題に現在財団が取り組んでいて、一刻も早く公平で健全な生活に戻って欲しいです。ちなみにこのスラム街は、タイの首都であるバンコクにあることに驚きました。貧困問題を抱えるところは、都会から離れた所にあると思っていましたが、首都の中にあり、一日一バーツ学校や幼稚園などもあります。日本では身近では感じられないことを学べて良かったです。

最後に、私のようなまだ自立していない人が、どのように貧困問題に取り組めるか、自分たちに何ができるかを考えました。例えば、普段日本での生活時におやつやお釣りなどのお金を一日少しずつ貯めていけば、一ヶ月一年と年を重ねていくごとに大きくなっていきます。それを生き直しの学校やスラム街の人たちに使ってもらう費用、何か生活で役に立つものを買って送ることなど様々な事ができると思いました。正直いく前は自分一人だけの力だけでは、どうにもならないと諦めかけていた部分もありました。これを機に毎日少しずつ貯金して、活動に取り組んで将来誰かの助けになりたいと思います。

「タイ　ボランティア　感想文」

駒込高校　一年　水野珠

私は今この感想文を書くにあたって文字にすることで私の体験した目に見えない一番大切なものが薄れてしまわないかとても不安です。それくらい私の人生において貴重で文字にし難い体験をし、学ばせて頂きました。

まず一つ目はタイ人の国民性です。私はタイに行ったらできるだけたくさん現地の人と触れ合いたいと思いました。言葉がほとんど通じないなかどのようにコミュニケーションをとるかとても不安でしたが、私たちが現地に着いたその瞬間から彼らは快く手を引いてもてなしてくれました。言葉はお互いわからなくても積極的にジェスチャーで教えてくれたりダンスを踊って常に私たちを笑顔にさせてくれました。最終日に私は、彼らにタイの良い所を聞いてみると十歳の男の子が「笑顔が大切」と答えました。日本という恵まれた環境で過ごす私たちよりも常に笑顔な「微笑みの国」のタイ。その笑顔の裏にはたくさんの辛い経験があったことと思います。それでも笑顔を絶やさないタイ人の国民性は本来大切でしかし恵まれた日本人は忘れていたものを思い出させてくれました。

二つ目はタイの発展の現状です。十八日の夜、タイの都市部に出てきた時立ち並ぶビルに私は驚きました。今まで過ごしていた地方には高い建物や舗装された道は無く、都市と地方の大きな格差を感じました。ホテルで一夜を明かし外に出てみると夜には暗くて見えなかった庶民の生活の実態が見えました。高層ビルの下には古いテントでできた店や家が所狭しと並びゴミが散乱していて、そこでスーツを着た若者が朝食を買う。日本では到底考えられない景色でした。労働を求めて都市にでてきた貧しい人

が行き場を無くして都市の路上に定住してしまう。彼らにとってはこの都市が最後の場所であり、ほかのところに行けばまた仕事を失ってしまうためやむを得ない状況なのです。高いビルが立ち一見かなり発展しているかのように見える都市の実態は貧しい人々とそうでない人が混在する格差社会でした。

三つ目は教育の大切さです。最終日に私たちはスラム街の見学をしました。スラム街は至る所に汚い水溜まりができていて散乱する生ゴミや食べ物にはハエが集まりかなり強い異臭を漂わせていました。とても心無い言葉となりますが、あそこは人間が住む場所ではないと思いました。私はその強烈な臭いに目を背け鼻を抑えたくなりました。しかし確かにその場所にはたくさんの人が今日も生活をしているのです。スラム街の唯一の救いはそこに立つ幼稚園と学校でした。私たちが見学した幼稚園では本当にスラム街かと疑わせるほど子どもたちがいきいきと笑って遊んでいてとても安心しました。幼稚園や学校は彼らに教育を与えるだけでなく親が仕事でいない間子どもたちを守ったり、スラム街の住人たちの団結に繋がります。また、教育を受けることによって肉体労働だけでない仕事に就くという選択肢が増えてスラム街から出る可能性を彼らに持たせることができます。しかし社会はスラム街出身の人に対する待遇が悪く、スラム街出身だとわかるとたとえ能力があったとしても採用されないことがあるそうです。彼らがスラム街から脱出するにはかなり難しいことがわかりました。また、実際にスラム街を歩いて私が驚いたのはテレビの普及率です。思ったより多くの家庭にテレビがありました。しかし問題はそこではなく、テレビはあるけどゴミはそのまま放置されているという環境でした。生まれながらスラムにいる人にとってはゴミをそのまま放置することは普通であり抵抗がないこととなってしまっているのです。日本では考えられませんがそれは私たちが衛生的に良い環境で暮らしゴミを分別してゴミ箱に捨てることが普通だと小さいころから学んでいるからなのです。彼らが今一番欲しているものは食べ物や便利な道具かもしれません。確かにそれらは一時的に彼らの生活を満たすものとなることでしょう。しかし今私たちが最も支援すべきなのは教育だと思います。日本には「米百俵の精神」という言葉があります。彼らの将来を変えていく鍵となるものは教育だということを学びました。

最後に、今回私はタイに行きたくさんのことを学ばせて頂きました。しかしそれと同時に自分の無力さを感じました。恵まれた環境で過ごしながら彼らに与えられたものは大きく与えたものは実に小さかったと思います。私は今の恵まれた環境に感謝しつつ、同じ世界に住む人としてこれからできることは何かよく考え少しずつでも彼らの役にたつことが出来れば良いと思いました。

「タイ・スタディーツアー感想文」

駒込高校　一年　土田和

今回のタイのボランティアは、私の人生において大変貴重な経験になりました。

私が生き直しの学校チュンポーン校で三日間過ごしてまず感じたのは、全員が優しくて、そして助け合っていることです。子どもたちには親がいないので全て身の回りのことを自分でしなくてはなりませんが、年上の子が小さい子の面倒を見ていて、積極的に行動をしていて感心しました。彼らとの交流で初めは言葉の壁もあり、なかなか上手くいかないこともありましたが、灯篭づくりや農業を通して仲良くなることが出来、言語が違ってもコミュニケーションをとることは可能なのだなと思いました。また、日本の学生は学校生活を送る中で男女間や男子同士、女子同士でグループ分けされている部分がありますが、タイの学生

はその様なグループ分けがなく、全員が楽しそうにしていたので、日本もそうなったら良いのにと思いました。さらにチュンポーン校の子たちは皆優しくて、日向にいたら日陰に連れて行ってくれたり、ずっと立っていたら椅子を差し出してくれたり、高いところから降りようとしたら手を貸してくれたりと、日本では経験できないようなことをしてもらえて、凄く嬉しかったです。彼らの将来の夢を聞いたときは、必ず叶えて欲しいと思いました。サッカー選手になりたい子もいればパイロット、教師などみんな夢を持っていました。中には日本に行くことが夢と言ってくれた子もいて、嬉しかったしぜひ来てほしいと思いました。

プラティープ財団を訪問して子どもたちの生活状況を知ったときは、とても衝撃を受けました。チュンポーン校やカンチャナブリ校の子どもたちは親が麻薬をやっていたり、家庭内暴力を受けていたと聞き、かわいそうで仕方ありませんでした。生き直しの学校に来てから、子どもたちが喉のところまでたくさん食べる理由が、食べる食事が今日で最後かもしれなく、明日食べられるという保証がないからと知ったときは本当に衝撃的でした。私が想像していた貧困状況よりはるかに酷く、心が苦しくなりました。

今回のボランティアで初めて自分の目でスラム街というものを目にしましたが、見たときは言葉が出ませんでした。同じ地球に住んでいるのにこんなにも格差があるものかと思いました。道も狭くひとつひとつの家が近くて、ごみも至るところに散乱していて、においもきつくて、私がもしスラムに住むなら厳しいと思うほどでした。スラムに住む人は元々農村部に住んでいて、仕事を求めてバンコクにやって来て、勝手にクロントイスラムを作って住み、それに対して政府が認めなかったのは、私的には政府がおかしいのではないかと思いました。理由があったにせよ、貧しいのだから認めてもいいのではないかと思ってしまいました。その人々のためにプラティープ財団を作り政府に交渉をして人々の生活を助けたプラティープさんに私はとても感謝しています。今はスラムの中でもしっかり整備されている地区は少ないけれど、交渉を続けて近い将来はスラムに住む人々が少しでも良い状況の中で生活できるようになったら嬉しいです。

今回のタイのボランティアで、実際に生き直しの学校の子どもたちと一緒に生活して、自分の肌で普段の彼らの生活を感じられ、スラム街見学で実際に自分の目で今起きている貧困状況を確認でき、これは絶対に将来まで語り継ぎ、改善していかなくてはならないと思いました。私はまだ高校生なので未熟だし収入もないので人々のために何かをするということは難しいかもしれないけれど、募金をするとか、子どもたちのためにお菓子をあげるとか、小さいことから始めることが大切だと思います。今回日本の代表として素晴らしい経験をさせていただいたので、この記憶は絶対に忘れません。将来、スラム街の生活状況向上と子どもたちの教育状況改善に携わっていきたいと思います。

「奇妙なタイツアー」

駒込高校　一年　柳澤浩子

まず、今回私がタイに行こうと思った理由についてとその目標の達成についてまとめようと思います。きっかけは、家庭科で見たフェアトレードについてのビデオです。そこでは、先進国の人たちが後進国の貧しい人たちのために、善意で洋服を寄付しても、あまりの数の多さに大多数がゴミとしてそこら中に捨てられていたり、無料で洋服が手に入るため、現地の人たちが洋服を買わなくなり、現地の洋服屋がつぶれるなど、結果的にマイナスに働いてしまっていました。そこで、私は、後進国の貧しい人々、例えばタイのクロントイスラムやチュンポ

ーンの生き直しの学校で生活している人々が本当に必要としているものが何なのかを確かめるために今回のボランティアに参加しました。

最初、チュンポーンの生き直しの学校での青年たちは、食べ物や服を必要としているのではないかと思っていました。しかし、実際の彼らは、洋服やくつを十分に持っており、衣食住には困っていなさそうでした。一人に話をきいたところ、将来はサッカー選手になりたいため、サッカーのゴールが欲しいという意見や、警察官になって悪い人から市民を守るために、銃を撃つ練習としてゴム鉄砲や水鉄砲が欲しいという意見がありました。他にも、プラティープ財団のミンポン先生のお話でも、水野さんが「日本にいて、何かできることはないですか」とたずねたら、「お金をためて、少しでも送ってほしい。そのお金で彼らにおかしを買います」と仰っていました。このことから、基本的な生活物資でなく、おかしやスポーツ用品といった娯楽品をもとめているのだとわかりました。

次に、クロントイスラムの人々についてですが、おおまか私が想像していた通りの生活をしていました。道ばたにゴミがあふれ、悪臭がし、犬も死んでいるような場所でした。彼らが必要としているものは、教育、衛生、基本的な生活などです。そのため、もし私が寄付をするとしたら、そのような需要を満たせる物資をわたしたいと思います。

二つ目は、目標以外に学んだことです。日本との大きな違いは、やはり国民性だと感じました。タイの人たちは皆フレンドリーで明るく、またとても優しいです。これが日本の男性だったらどうなるのかなと想像してみましたが、おそらく遠慮してあまり話しかけず、肩を気軽に組むなんてことはできなかったでしょう。劣悪な環境にいても、他人に明るい態度で接することができるのは、タイの人たちの大きなステキな点だと思いました。

また、観光地での値切りや、道路をたくさん走るバイク、多様なタクシー、タイでの挨拶、常識、マナーなど、次にタイへ旅行に行くときに役立つ知識も先生方や現地の青少年、ガイドさんたちに教えてもらいました。さらに、スラムでのマナーやスラムの人々の温かさ、子どもたちに蔓延している麻薬問題など、普通にタイを観光しただけでは知ることができないことも知ることができました。

タイの光と闇、どちらも一度に触れることができて本当にうれしいです。このようなすばらしい体験をさせていただき、ありがとうございます。この体験を糧に成長し、大人になっても思い出を忘れないようにします。

十一月十六日

バーンタップマイ小中学校を訪問

十一月十六日

灯籠流し

灯籠作り

十一月十七日

Tシャツ作り

アブラヤシ農園での肥料散布

伝統行事ソンクランを体験

市場での食材買い出し

十一月十八日

ドリアン苗木植林

バーベキュー交流

意見交換会

アブラヤシの実を使ったキーホルダー作り

十一月十九日

クロントイスラム地区を視察

財団事務所での学習会

第三十三回 全国一斉托鉢

平成三十年十二月一日、第三十三回全国一斉托鉢が開始された。十二月の「地球救援募金強化月間」中は各教区本部を中心に戸別托鉢や街頭托鉢が展開され、師走の恒例行事となっている。今回も多くの方々の協力により平成三十一年二月六日現在で六十六会場の実施報告があった。

全国での募金総額は九百六十四万五千二百六十八円で、これらの浄財から地域社会福祉向上のために地元の社会福祉協議会やNHKの歳末たすけあい運動などに届けられたほか、一隅を照らす運動総本部「地球救援事務局」に五百四十七万千二十八円が寄託された。

各地の模様

（平成三十一年二月六日までに各教区より提出された報告書の内容を掲載）

延暦寺一山

平成三十年十二月一日、比叡山麓の大津市坂本地区一帯で行われ、今回で三十三回目を迎えた全国一斉托鉢には、延暦寺一山住職や職員、天台宗務庁の役職員、総勢約百名が参加した。

午前九時より、法螺貝の音を合図に生源寺を出発した一行は、天台座主森川宏映猊下を先頭に「造り道」を托鉢行脚。その後、六班に分かれて坂本界隈の戸別托鉢を行い、多くの浄財が寄せられた。また、天台宗務庁の役職員と延暦寺一山寺庭婦人が、JR比叡山坂本駅、JR堅田駅、JR大津京駅と京阪坂本比叡山口駅にて街頭募金を実施した。

なお、当日寄せられた浄財はNHK歳末たすけあい運動とNHK海外たすけあい運動に寄託された。

滋賀教区本部

十二月一日、蒲南部正宝寺、石垣坊、薬師堂にて総勢四十一名が九班に分かれ戸別托鉢を実施。事前に各寺院檀信徒に呼びかけていただいたので、当日はスムーズに托鉢を行うことができた。協力者も合掌し、気持ちの良い托鉢となった。地球救援事務局に十二万二千円を寄託。

京都教区本部

十二月一日、京都市中京区四条河原町周辺にて総勢二十三名が街頭托鉢を実施。道中募金してくださる方が数名いたが、足を止めて募金してくださる方は例年にも増して少なかったように感じた。また、別動隊にて教区内寺院、出入り業者等に浄財をお願いした。京都新聞に十七万四百十五円、地球救援事務局に十七万四百十五円を寄託。

兵庫教区本部

・第一部では十二月四日、明石市JR明石駅周辺にて総勢二十三名が托鉢行脚と街頭募金を実施。師走の市街地を練り歩き、檀信徒宅並びに縁者店舗にて読経、その後JR明石駅周辺にて街頭募金を行った。

皆さま笑顔で浄財をいれていただいた。地球救援事務局に八万七千七百七十三円を寄託。

・第二部では十二月一日、高仙寺檀中地域にて総勢四十一名が戸別托鉢を実施。当日は寒いながらも晴天に恵まれ、各寺院はじめ檀信徒の協力のもと、順調に運ばせていただいた。各戸あたたかく出迎え、協力をいただけた。中にはこの日のために、小銭を集め寄付をしてくださる方もいた。篠山市に十六万円、三田市に二万円、加東市に二万円、地球救援事務局に十万九百二十二円を寄託。

・第三部では十二月一日、光福寺檀信徒地域にて総勢五十七名が戸別托鉢を実施。本堂前にて結団式を行い、各地区に分かれて檀信徒宅にて「般若心経」をお唱えした。加西社会福祉協議会に十一万四千円、地球救援事務局に十一万五千円を寄託。

・第四部では十二月一日、姫路駅前から姫路城前までの間にて総勢十二名が托鉢行脚を実施。この日は、暖かく土曜日ということもあって姫路城観光の方が大勢おられた。しかし、その場でお経を唱えながら待っていても集まらないように感じた。ティッシュを配って受け取っていただいた方の中には募金してくださる方もおられた。地球救援事務局に七万一千六百四十三円を寄託。

・第五部では十一月二十三日、清泉寺周辺の美方郡新温泉町三谷にて総勢十名が戸別托鉢を実施。冷たい雨の降る中ではあったが、清泉寺住職の行き届いた準備により、住職や寺族、檀信徒の皆で協力し合い円滑に進めることができた。地球救援事務局に三万円を寄託。

・第六部では十二月一日、白毫寺檀中にて総勢四十六名が戸別托鉢を実施。本年は

持ち回り順で、白毫寺檀中にて行った。各班に分かれ、白毫寺を出発、地区内を巡回し托鉢。当地域は、四巡目となっており、玄関先で待っていただいていた檀家さんもあり、大変協力的であった。労いの言葉もかけていただいた。丹波市社会福祉協議会に九万千七百五十円、地球救援事務局に九万千七百五十円を寄託。

岡山教区本部

・第四部では十一月三十日、倉敷市玉島市街にて総勢五十名が五班に分かれて戸別托鉢を実施。この時期にしては温かい気候の中、地球救援リーフレットと托鉢用ポケットティッシュを配りながら協力をお願いした。訪問先では般若心経一巻を勤め、一件の事故もなく勤め上げられた。何年も前から実施しているので、多くの人は恒例行事の様にとらえてくれており、募金にも大変協力的であった。倉敷市玉島社会福祉協議会に五万円、地球救援事務局に十二万四千二百八十三円を寄託。

・第五部では托鉢行脚を実施していない。山陽新聞社会福祉事業団に三万円を寄託。

山陰教区本部

・第一部では十二月四日、鳥取市ＪＲ鳥取駅北口、南口、商店街にて総勢八名が三班に分かれて街頭募金を実施。南口では、「ご協力よろしくお願いいたします」と声を掛け、多くの人の反応があった。北口では般若心経を唱え、皆さまのご協力があった。商店街では人通りが少なく反応はあまりなかった。日本赤十字奉仕団に二万三千六百二十五円を寄託。

・第一部では十二月一日、三朝温泉街周辺にて総勢二十名が戸別托鉢を実施。年末恒例の三徳山内寺院四カ寺と檀信徒の協力を得て、三朝温泉街を二班に分かれて托鉢した。地域住民の温かい協力をいただき、多くの浄財を寄託することができた。三朝町社会福祉協議会に十万円、地球救援事務局に十万千百二十二円を寄託。

・第二部では十二月一日、松江市普門院周辺にて総勢七名が戸別托鉢を実施。松江市旧市街住宅地にて実施したが、まだ馴染みがないため反応はほとんどなく、空き家も多い。毎年同時刻で実施することで理解を得られるように続けて行きたい。山陰中央新報に三万二千三百四十四円、地球救援事務局に二万五千円を寄託。

四国教区本部

十一月三十日、高松市高松中央商店街にて総勢二十七名が托鉢行脚を実施。克軍寺に参集し、法楽後ことでん瓦町駅前に移動。檀信徒はのぼりを持ち、僧侶は地球救援リーフレット、托鉢ポケットティッシュを配布する者と募金箱を持つ者で隊列を組み、

高松中央商店街を約二キロ、買い物客に募金を呼び掛けながら行った。本年は台風被害や西日本豪雨、北海道地震等の自然災害が多かったため、多くの関心がよせられた。地球救援事務局に七万七千五百四十九円を寄託。

九州東教区本部

・第一教部では部内各寺院より寄せられた三万円を地球救援事務局に寄託。

・第二教部では部内各寺院より寄せられた四万五千円を地球救援事務局に寄託。

・第三教部では十二月三日、豊後高田市内昭和の町周辺にて総勢七名が二組に分かれて戸別托鉢を実施。大分県交通安全協会豊後高田支部に五万円、地球救援事務局に七万九千三百八十四円を寄託。

・第四教部では十二月一日、大分市トキハデパート前にて総勢九名が街頭募金を実施。寺庭婦人の方々にも協力をいただいて行った。デパート前は工事中のため人通りが少なく、あまり反応がなかった。地球救援事務局に三万五千五十円を寄託。

・第五教部では部内各寺院より寄せられた一万五千円を地球救援事務局に寄託。

・第六教部では部内各寺院より寄せられた一万円を地球救援事務局に寄託。

九州西教区本部

・筑前部では十一月三十日、福岡市成就院周辺にて総勢十四名が二班に分かれて戸別托鉢を実施。当日は天候も良く暖かな金曜日であり、通行者、車両の多い中、往来の妨げにならないよう注意し商店から浄財をいただいた。中には追いかけてきて募金する方もおり、心が和む出来事であった。地球救援事務局に七千八百円を寄託。

・久留米部では十二月七日、久留米市街中心部の商店街にて総勢八名が戸別托鉢を実施。二十四節気の大雪の今日、寒さ厳しい霧雨の中、町の中心にて托鉢を行った。商店街はシャッターが閉まっている所も多かったが、それでも毎年の托鉢は浸透している様子で、多くの方々に協力をいただいた。皆さん協力的で、中には追いかけて募金される方もおられた。地球救援事務局に四万六千二百二十九円を寄託。

・柳川部では十二月六日、柳川市内商店街にて総勢八名が街頭募金を実施。年々商店街の商店が少なくなり、また本年は雨天の中での実施だったため通行人、買い物客が少なかった。例年のことで、毎年

反応される方はされるが、ない方は気にもとめない。人間関係の希薄さが感じられる。地球救援事務局に一万五千円を寄託。

・肥前東部と肥前西部では合同にて十二月三日、佐賀市中央大通り商店街周辺にて総勢十四名が托鉢を実施。雨天の中での托鉢となり、歩行者はまばらであったが、毎年同所にて実施しているため、全国一斉托鉢の主旨に賛同いただき浄財を喜捨いただいた。途中雨が強くなり予定よりも早く切り上げることとなったが、各寺から持ち寄られた浄財とあわせ多額の協力がいただけた。地球救援事務局に五万九千二百三十三円を寄託。

・対馬部では十二月十三日、対馬市上対馬町比田勝商店街にて総勢十八名が托鉢を実施。拡声器を使って募金を呼びかけながら商店街を一周した。昨年に続き、同じ場所で実施したため、認知度も高く快く喜捨された。これで良い年が迎えられます等の感謝の言葉もあった。対馬市社会福祉協議会に一万円、地球救援事務局に四万九千五百五十円を寄託。

三岐教区本部

十一月十七日、岐阜一部圓興寺周辺にて総勢二十名が二班に分かれて戸別托鉢を実施。玄関前で経を読誦し、家人は皆快く募金していただいた。地球救援事務局に五万二千五百円を寄託。

東海教区本部

・十二月一日～七日、知多市八幡地区周辺にて総勢二十一名が戸別托鉢を実施。七日間、八幡地区にて伝教大師鑽仰和讃を詠唱しながら行われた。知多市社会福祉協議会に三十万円、愛知県共同募金会に十万円、地球救援事務局に五万六千二百九十九円を寄託。

・十二月二十一日、覚王山日泰寺にて総勢八名が募金活動を実施。毎年十二月二十一日は縁日で年末の買い物をかねてのお参りが多い日で、師走にしては天気にも恵まれ募金活動に応じていただける方も多く、また毎年の行事になり小銭を袋等に貯めて届けていただける方も増えている。啓発品を配りながら募金活動を実施していると毎回募金に、来られる人から励みの言葉をいただき、寒さに負けずに成し遂げられた。今回は、四月に行った托鉢募金の寄託先と金額を募金箱に提示して透明性、信頼性を表した。中日新聞に五万円、天台宗仏教青年連盟に十万四千百四十四円、地球救援事務局に五万円を寄託。

北陸教区本部

十一月二十五日、丹生郡越前町大谷寺周辺にて総勢十七名が戸別托鉢を実施。天候に恵まれる中、集落の数も少なく、檀家の数も少なかったが、皆協力的で大変信心深く、終始合掌、各家快く迎えていただいた。地球救援事務局に三十万二千八百七十五円を寄託。

信越教区本部

・伊那部では十二月六日、高森町山吹地区周辺にて総勢七名が戸別托鉢を実施。事前に檀家宅に案内書を配布して協力依頼し小雨の中、実施した。地区内初めての戸別托鉢であったが、玄関で読経が終わるまで、正座されている方も多くあった。地球救援事務局に十一万四千七百九十一円を寄託。

・長野部では十二月一日、善光寺仁王門周辺にて総勢八名が街頭托鉢を実施。災害への托鉢に比べて声掛けへの反応は弱く感じが、「歳末たすけあい」運動と同じように受け止めてもらえたようで、快く協力いただけた。地球救援事務局に六万六千七百四十七円を寄託。

神奈川教区本部

十二月四日、川崎市ＪＲ川崎駅東口銀柳街周辺にて総勢三十八名が一組七～八名の五組に分かれ、幟旗を掲示しチラシ、ティッシュを配布し街頭托鉢を実施。天台宗を掲げて全国一斉托鉢を行っている旨を伝え、募金への協力を呼びかけた。通行の方々から多く浄財をいただき、また教区内の各寺院がそれぞれ集めた募金も持参いただいた。川崎市民の方々から好意的に募金をいただいた。教区仏教青年会救援募金に十万円、地球救援事務局に二十万六千八十六円を寄託。

東京教区本部

・東京教区本部では十二月八日、聖観音宗浅草寺宝蔵門前にて総勢三十六名が街頭托鉢を実施。浅草寺本堂の正面という素晴らしい環境で実施できたため、大勢の通行人がおり、しょうぐうさんも大人気で写真の依頼が殺到していた。海外からの観光客が多いため、托鉢の主旨等が理解いただけないことが散見された。今回、総本部にて作成いただいた英語の横断幕はかなりの効果があったが、アジア系の観光客がより多く、言語対応ができていないことで、趣意を伝えられずに多くの機会を逃しているように感じた。あしなが育英会に十五万円、港区社会福祉協議会に五万九千七百六十二円、地球救援事務局に十五万円を寄託。

・東京教区仏教青年会では十二月五日、明治神宮外苑前イチョウ並木にて総勢六名が街頭托鉢を実施。当日は晴天に恵まれ、銀杏並木もたいへん綺麗な中にて行った。毎年観光客が主たる場所で行っており厳しい面もあるが、天台宗であること、比叡山が総本山だということを伝えると、段々と協力していただける方が増えた。日本赤十字社ＮＨＫ海外たすけあいに二万円、社会福祉法人中央共同募金会に三万円を寄託。

北総教区本部

十二月十六日、旭市溝原東栄寺周辺にて総勢十四名が戸別托鉢を実施。事前に案内を出し、範囲をしぼって募金活動を行った。日曜の午後ということで、留守の家もみられた。小見東部は、過疎地域であり繁華街も少なく、募金活動の難しさを感じた。今回は、部内各寺院からの募金も集めている。地球救援事務局西日本豪雨・北海道地震等の災害支援に十二万六百七十二円を寄託。

南総教区本部

十一月二十六日、千葉県ＪＲ勝浦駅前及び市街周辺にて総勢七名が托鉢行脚を実施。勝浦は夏場がシーズンなため、この時季は乗降客も少なく、募金状況は芳しくなかった。また、市内についても平日の昼間ということもあり、人通りは殆どなかった。募

金協力者は多くはなかったが、その中でも「一隅を照らす運動」を理解していただいた方は温かく募金に協力していただいた。タイ・プラティープ財団に一万円、地球救援事務局に二万六百四十二円を寄託。

埼玉教区本部

十二月一日、川越駅東口並びにクレアモール商店街周辺にて総勢二十五名が街頭募金を実施。週末ということもあり、参加者不足も心配されたが、多くの方に参加いただけた。また、毎年川越と熊谷の二ヵ所で行っていたが、人通りが少ないこともあり、今年より川越のみで行うこととした。災害の多い年ということもあってか、協力者が多かった様に感じた。また、一隅を照らす運動作成のポケットティッシュを喜んでいた。天台仏教青年連盟に七万二千六百二十八円、地球救援事務局に十万四千百四十一円を寄託。

群馬教区本部

・南前橋部では十二月一日、玉村町東榮寺、普門寺、法運寺周辺にて総勢百六名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に十万七千七十円、地球救援事務局に三十五万円を寄託。

・北前橋部では十二月六日、前橋市明聞寺周辺にて総勢十四名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に五万六千九百七十円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・西前橋部では十二月一日、西前橋部正法寺周辺にて総勢三十五名が戸別托鉢を実施。上毛新聞社に五万千円、清里社会福祉協議会に三万円、仏教保護会に五万円、群馬教区本部に五万円、地球救援事務局に十万円を寄託。

・高崎部では十二月八日、高崎駅前、高崎市街地にて街頭托鉢と戸別托鉢を実施。群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に三万円を寄託。

・富岡部では十二月一日に富岡市内、甘楽町内にて総勢二十四名が戸別托鉢を実施。社会福祉協議会に十七万六千六百八十円、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に二万円を寄託

・多野部では十一月四日、多野部普賢寺で行われた研修会にて募金を実施し、総勢八十四名から浄財を募った。群馬教区本部に三万円、地球救援事務局に二万四千円を寄託。

・北群馬部では十二月一日、渋川市内にて総勢六十名が街頭托鉢を実施。上毛新聞社に十万円、渋川市社会福祉協議会に十万円、群馬教区本部に八万三千百四十二円、地球救援事務局に五万円を寄託。

・沼田部では十一月二十六日、部会にて住職十四名から浄財を募った。群馬教区本部に二万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

・桐生部では十二月二日、桐生市本町周辺にて総勢十三名が街頭募金を実施。群馬教区本部に四万六千七百八十六円、地球救援事務局に二万円を寄託。

・東前橋部では十一月二十四日、部内各寺院にて総勢十名が戸別托鉢を実施。群馬教区本部に七万円、地球救援事務局に五万円を寄託。

・伊勢崎部では十二月十三日、部会にて部内住職から浄財を募った。群馬教区本部に二十二万円、地球救援事務局に二十一万七千七百六円を寄託。

・世良田部では十一月二十二日、部会にて部内住職から浄財を募った。群馬教区本部に二万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

・下仁田部では十二月一日、下仁田町、南

牧村内にて総勢十一名が戸別托鉢を実施。下仁田町社会福祉協議会に五万五千五百九十一円、南牧村社会福祉協議会に八万八千四百四十五円、仏教保護会に二万円、群馬教区本部に一万円、地球救援事務局に一万円を寄託。

茨城教区本部

・茨城教区本部では十二月一日、第二部千光寺周辺にて総勢十四名が戸別托鉢を実施。教区浄財積立に五万円、地球救援事務局に十万千五百七十六円を寄託。

・第二部では十二月一日、筑西市下館駅北口広場、北口目抜通り、北口南口商店街、かすみストアー入口周辺にて総勢八名が街頭募金、戸別托鉢を実施。平成三十年度托鉢も茨城教区托鉢と重なり、観音寺、普門寺、極樂寺住職副住職四名、他宗住職四名の計八名で行った。下館駅の乗降者、目抜通りを往来する者は少なく、各住職が檀家宅を回り、浄財を仰いだ。しょうぐうさん着ぐるみは駅前広場とスーパーマーケット入口に登場してもらい、一般の方から募金活動を行った。しょうぐうさん着ぐるみの人気は高く、特に幼児の興味を引く様子で複数回募金してくださる子が見られた。筑西市共同募金委員会に十二万百六十三円を寄託。

栃木教区本部

十二月一日、JR宇都宮駅西口駅前にて総勢十六名が街頭募金を実施。夕方の帰宅者を主な対象として、三グループに分かれて行った。土曜日であったため通勤者は少なかったが、多くの女性や子どもたちが募金をしてくれた。年に二～三回は、同一の場所にて募金活動を行っているので認知度は高まっていると思われる。地球救援事務局に三万四千円を寄託。

福島教区本部

・福島教区本部では十二月一日、須賀川市周辺にて総勢二十五名が街頭募金を実施。社会福祉協議会に三万円、あぶくま時報に三万円、地球救援事務局に三万二千三百四十七円を寄託。

陸奥教区本部

十月二十一日、仙台市の仙台迎賓館斎苑にて募金を実施。一隅を照らす運動推進大会での実施だったため、とても協力的だった。地球救援事務局に三十八万三千九百六十二円を寄託。

山形教区本部

十二月一日、山寺部立石寺参道、商店街周辺にて総勢五十六名が街頭募金並びに戸別托鉢を実施。寒風吹き荒れる中、立石寺根本中堂前、参道沿いの商店街を二組に分かれて行った。参拝者や観光客、お店の方々、周辺宅の方に協力いただいた。商店街の方々は、積極的に協力してくれるが、観光客の方々

は見て見ぬふりなど非協力的な方が多くみられた。山新愛の事業団に八万八千六百十五円、地球救援事務局に十万円を寄託。

平成三十年度支部活動事業認定支部

一隅を照らす運動総本部では、平成十九年度より宗祖大師のお言葉「己を忘れて他を利するは慈悲の極みなり」の精神で社会奉仕活動を実践する支部を奨励し、助成を行っております。平成三十年度の認定支部は次のとおり二十三支部。（申請時の内容を掲載①事業名②活動年数③開催場所④概要）

滋賀教区本部

教林坊支部（廣部光信支部長）

①教林坊春秋茶会　②十五年　③滋賀県近江八幡市安土町　④年二回の茶会を開催し、地元を中心に毎回百名近い参加がある。江戸初期の書院を茶席、本堂を待合の席として活用し、待ち時間を利用してミニ法話を実施している。

安養寺支部（鷲見岱俊支部長）

①愛犬部檀信徒会「一隅を照らす運動」実践活動　②七年　③滋賀県犬上郡多賀町　④年一回、県立甲良養護学校の校舎周囲の清掃活動を実施している。草刈り、生垣の剪定、年によってはビニールハウスの補修作業等を依頼される。

松尾寺支部（近藤澄人支部長）

①松尾寺山の里山保全・整備活用事業　②二十三年　③滋賀県米原市　④松尾寺が中心となり「松尾寺山登山道保存会」を結成。荒廃した山中の登山道、林道を出来る範囲で整備し、専門性の高い個所については委託している。今春は、伐採木を活用した「しいたけ栽培体験会」を企画している。

兵庫教区本部

和田寺支部（武内泰照支部長）

①地蔵盆まつり　②四十一年　③兵庫県篠山市今田町　④しょうぐうさんと共に参加者一同でのおつとめからはじまり、盆踊り、その後ゲーム、地域の方のパフォーマンス等を観覧、出演者を募って子どもたちが出演するむかしばなし音楽劇の上演等を行っている。

常行院支部（岡山亮徹支部長）

①山下城跡周辺保存会　②八年　③兵庫県加西市山下町　④城山の保全整理、環境整備や植栽、竹林の整理、景観の確保等を行っている。八月下旬には小学生を対象にした、おとまり会を本堂で行い坐禅や灯ろうの制作、花火大会を行っている。

彌勒寺支部（草別善哉支部長）

①ほていまつり　②二十三年　③兵庫県姫

路市夢前町　④本堂及び本尊、寺宝展、書院庭園の公開、フリーマーケット、福餅撒き、ビンゴ大会、紙芝居、モンキーショーの実施、近隣の老人ホーム入所者の招待、授産施設の販売コーナーも実施している。

白毫寺支部（荒樋勝善支部長）

①自然環境保全及びまちづくり交流事業　②二十八年　③兵庫県丹波市市島町　④寺院及び周辺に花木等を育て環境保全に資するとともに、イベント等を通じて交流事業を行い地域の発展に貢献。「白毫寺九尺ふじまつり」の実施や「もみじめぐり事業」への協賛などを実施している。

岡山教区本部

正満寺支部（村上行英支部長）

①一隅を照らす運動五十周年記念赤坂三ヶ寺声明公演と音楽フェスタ　②新規企画事業　③岡山県赤磐市　④部内三ヶ寺を中心とした声明公演や地元の各活動グループの発表を実施、会場では、住民の屋台出店で地場産業の紹介の場とする。

普光寺支部（青野高陽支部長）

①子どもの書道教室　②新規企画事業　③岡山県久米郡美咲町　④地元小学生を対象に開催を計画。毎週一回、地域の高齢者数名が毛筆書道、礼儀作法、般若心経の読経や写経を指導する。

山陰教区本部

興隆寺支部（市原修俊支部長）

①山寺コンサート　②九年　③山口県山口市　④江戸時代に行われていた「二月会」を子どもからお年寄りまでが親しめる現代版の催しとして再興して実施している。

九州東教区本部

眞光寺支部（糸永崇幸支部長）

①公開文化講座　②十三年　③大分県大分市　④檀信徒の中でいろんな場所や場面で活動している人を知らせる場を提供し、この活動によって、その輪が広がる事を目的としている。

三岐教区本部

寶光院支部（鈴木孝慈支部長）

①杭瀬川並びに野口町内清掃　②五十年以上　③岐阜県大垣市　④年一回、檀信徒に声をかけ、寺院のまわりや周辺を流れる杭瀬川の清掃を実施している。

東海教区本部

日輪寺支部（輪田友博支部長）

①日輪寺花まつり　②十二年　③愛知県春日井市二子町　④本堂での展示、公演を実施。直近ではしょうぐうさん体操も取り入れ、「天台宗や一隅を照らす運動」について来場者に対して話している。

高田寺支部（柴田真成支部長）

①高田寺書道風公献書展　②三十五年　③愛知県北名古屋市　④書道を通して人材養成を目指している。この献書展では、伝教大師のみ教えである「一隅を照らす運動」の活動として縁日の行事の中で行っている。

真福寺支部（澳聰全教支部長）

①寺子屋　②三年　③愛知県岡崎市真福寺町　④八時から本堂で般若心経と法話、食堂にて勉強、十時にかき氷、十二時より流しそうめんを実施している。

瀧山寺支部（山田亮盛支部長）

①瀧山寺節句の会　②五年　③愛知県岡崎市滝町　④古来から伝わる節句の文化の伝承と新たな節句の創造を通して地域の方々と交流をはかることを目的に、アート、音楽、和の文化の鑑賞・体験と地元の旬の食材を使った精進料理を提供している。

信越教区本部

正教院不動教会支部（山崎晃圓支部長）

①池ヶ原老松会　②三十五年　③新潟県小千谷市　④池ヶ原神社の清掃や、池ヶ原公会堂の広場の雑草駆除のために除草剤の散布、地域の老人と小学生の世代間交流会では遊びに加え、小千谷警察署の協力で交通安全の講話を行っている。

群馬教区本部

萬福寺支部（守山俊尚支部長）

①寺遊会　②五年　③群馬県前橋市女屋町　④まず自分の足元から、「一隅を照らす」ことから進めようと檀家や近所の方に声を掛け、手芸やゲーム遊びなどを互いに教え合い、手伝い合いながら進め、親睦を深めている。

禪養寺支部（小出祥弘支部長）

①寺献会　②十二年　③群馬県前橋市山王町　④子どもたちの安全、安心を願い学区内の清掃、寺院行事への青少年の参加促進、環境整備・保全活動、一隅を照らす運動の周知をはかり地球救援募金への協力促進に取り組んでいる。

正法院支部（藤井祐心支部長）

①正法院杯　②五十年　③群馬県前橋市富田町　④境内・神社・公民館などの清掃活動、小中学生・保護者を中心に座禅会、正法院杯（ゲートボール・スマイルボウリングの大会）等を開催している。

茨城教区本部

來迎院支部（深谷尚永支部長）

①御詠歌・読誦会・仏教文化・火防祭・研修会・奉仕作業　②十四年　③茨城県竜ヶ

崎市馴馬町　④御詠歌・読誦会・仏教文化・火防祭・研修会・奉仕作業等の事業を毎回楽しく和気あいあいと活動している。終了後はなるべく解りやすい法話等を話している。

陸奥教区本部

黒石寺支部（藤波大吾支部長）

①竹あかり　②三年　③岩手県奥州市水沢区黒石町　④細工を施した竹を境内の一角に並べ光による異空間を作り上げる。お盆期間中の夜、境内を一般に開放するとともに、精霊達に想いをはせ、命への感謝を思い起こす機会を提供する。また、近隣の竹林の環境整備にも貢献している。

安楽律法流本部

宗休寺支部（佐藤舜海支部長）

①関善光寺ふれあいプロジェクト　②八年　③岐阜県関市西日吉町　④寺院を地域社会の新しい「対話」と「交流」の場とする様々な事業を展開し、寺院を核に新しい地域コミュニティを作ることを目的に活動している。内容として林間学校、写生大会、餅つき大会を実施している。

■一隅を照らす運動推進大会■

○京都大会

京都教区本部（若林節哉教区本部長）では、平成三十年十月十八日に京都市左京区の眞正極樂寺真如堂を会場に、伝教大師降誕会一隅大会を開催し、百三十四名の参加者が集まった。

午前十時より眞如堂本堂において伝教大師降誕会法要として、参加者全員にて伝教大師和讃を奉読し、引き続いて写経会を開催した。昼食後、一隅大会が開会し、はじめに来賓より挨拶があった。その後、公演として和太鼓集団バチホリックによる、太鼓演奏が奉納された。続いて、東京教区龍泉寺住職齊藤圓眞師を講師に「伝教大師の目指された道」と題して講演が行われた。齊藤師は、伝教大師の志しについて分かりやすく、特に伝教大師が遺された「忘己利他」の言葉に触れ、参加者の身近な経験を思い起こさせながら語られた。最後に、檀信徒代表から謝辞が述べられ、大会は閉会となった。

○東海大会①

東海教区本部（柴田真成教区本部長）では、平成三十年十月二十一日に静岡県周智郡森町の蓮増院を会場に、天台宗東海教区八部第五十八回一隅を照らす運動檀信徒会を開催し、約百名の参加者が集まった。

式典のはじめに会場寺院である東海教区蓮増院住職高木光基師から開会の挨拶があり、続いて高木師を導師に法楽が執り行われた。法楽の後、来賓挨拶として、天台宗宗務総長代理教学部長森田源真師、東海教区宗務所長代理副所長辻亮公師、同教区本

部一隅を照らす運動事務局長安藤誠亮師が祝辞を述べられた。

式典の後、北陸教区翠雲寺住職岩尾照尚師より「天台宗一隅実践活動」としてモンゴル砂漠の植樹報告と馬頭琴演奏があり、続いて馬頭琴奏者イラナ氏による演奏会も行われた。公演の後に昼食を挟み、第八部寺院代表者による意見交流会が行われ「一隅を照らす運動」を檀信徒以外の一般の方に広めるには等の意見交換があり、大会の全日程は終了した。

○陸奥大会

陸奥教区本部（千葉亮賢教区本部長）では、平成三十年十月二十一日に仙台市の仙台迎賓館「斎苑」を会場に、平成三十年度一隅を照らす運動陸奥教区本部一隅を照らす運動発足五十周年記念仙台大会を開催し、約六百名の参加者が集まった。

第一部では、山田俊和中尊寺貫首の挨拶、天台宗宗務総長代理林光俊社会部長・森定慈仁一隅を照らす運動総本部長より祝辞、続いて来賓紹介があった。つぎに千葉教区本部長導師のもと「一隅を照らす運動発足五十周年並び、震災物故者慰霊復興祈願」法要が厳修された。

第二部では、藤波源信北嶺大行満大阿闍梨を講師に「日常生活と仏道修行」と題した講演があり、参加者一同は貴重な話に聞き入っていた。

第三部では、青森県石黒市津軽三味線奏者渋谷幸平氏による三味線の演奏があった。

最後に、陸奥教区本部より森定総本部長に募金の寄託が行われた。この募金は、地球救援募金として様々な団体を通じて、支援先に届けられる。

○岡山大会

岡山教区本部（永宗幸信教区本部長）では、平成三十年十月二十六日に倉敷市の倉敷市民会館を会場に一隅を照らす運動五十周年記念第十一回天台宗岡山大会を開催し、約千二百名の参加者が集まった。

はじめに、世界恒久平和祈願法要が執り行われた。修験道法流による法螺の音とともに幕があがると玄清法流による琵琶が奏でられ、その中を式衆が入場。一隅を照らす運動副会長・中尊寺貫首山田俊和師が大導師を勤められ法要が厳修された。法要後には、天台宗議会議員栢木寛照師より、今回の法要に出仕された伝承法流の解説があり、天台宗の成り立ちに深くかかわる各法流の重要性を話された。

つぎに式典があり、主催者を代表して大会実行委員長の永宗教区本部長より挨拶があった。続いて、来賓を代表して同運動副会長山田俊和

師、同運動副理事長・延暦寺執行小堀光實師より挨拶があり、その後、来賓紹介、教区表彰の授与式が行われた。

休憩を挟み、教区内の敬愛幼稚園・第二敬愛幼稚園の園児による園児詠唱、叡山福聚教会岡山地方本部・山陽地方本部会員による詠舞奉納があり、続いて教区内の慈愛幼稚園・敬親保育園・敬親かもがた保育園の園児百二十名による「しょうぐうさん体操」が披露された。

その後、漫才師の宮川花子氏を講師に迎えて「花子のいきいきライフ」と題して記念講演が行われた。

最後に大会事務局長の村上行英師から閉会の挨拶があり、大会は閉幕となった。

○滋賀大会

滋賀教区本部（山岡智恢教区本部長）では、平成三十年十月二十七日に甲賀市のあいこうか市民ホールを会場に、平成三十年度一隅を照らす運動発足五十周年記念第二十二回「一隅を照らす運動」滋賀教区本部推進大会を開催し、四百三十四名の参加者が集まった。

はじめに山岡教区本部長導師のもと法楽が厳修された。法楽後、山岡教区本部長より挨拶、杜多道雄天台宗宗務総長より支部活動助成金認定書が対象支部の代表者それぞれに手渡された。

続いて、杜多宗務総長・森定慈仁同運動総本部長の祝辞があった。

休憩の後、善光寺大勧進副住職の栢木寛照師を講師に「根本を見る」と題した講演があり、参加者一同は、時折笑いつつも貴重な話に耳を傾けていた。

つぎに、滋賀県立甲西高等学校吹奏楽部による吹奏楽の演奏が行われた。大迫力の演奏に会場は盛り上がりをみせていた。

最後に、教区本部より森定総本部長に浄財の寄託が行われ、大会は終了した。

○東海大会②

東海教区本部（柴田真成教区本部長）では、平成三十年十一月二十五日に名古屋市の日本特殊陶業市民会館を会場に～発足五十周年記念～一隅を照らす運動東海大会を開催し、約千二百名の参加者が集まった。

はじめに、東海天台仏教青年会とアユチ雅楽会による天台声明・雅楽公演が行われた。

つぎに式典があり、主催者を代表して柴田教区本部長からの挨拶、来賓を代表して杜多道雄天台宗宗務総長から祝辞が述べ

られた。

引き続いての目録贈呈式では、柴田教区本部長から森定慈仁一隅を照らす運動総本部長に地球救援募金として目録が寄託された。

式典の最後に表彰式があり、「一隅を照らす運動」を永年に亘り実践されている功績を讃え、六団体に表彰状が授与された。

つぎに、京都教区三千院門跡門主掘澤祖門師を講師に迎えて「泥仏」と題して講演が行われた。

講演の後、叡山講福聚教会東海本部が中心となって参加者とともに御詠歌が唱和された。

講演後の休憩時間には、しょうぐうさんと子どもが出演して「しょうぐうさん体操」を披露する機会が設けられ、司会者に促された参加者も席に座りながら身体を動かすひとときとなっていた。

休憩の後には、一隅を照らす運動広報大使露の団姫師による「仏教落語」が披露されると会場は大きな笑い声に包まれていた。

大会の最後に、和太鼓零～ＺＥＲＯ～による和太鼓演奏が披露されると会場は大いに盛り上がりをみせた。

公演が終わり、閉会の辞が安藤誠亮実行委員長より述べられ大会は終了した。

一隅を照らす運動ニュース

◎「一隅を照らす運動」理事会を開催

・第二回理事会

平成三十年十一月五日、天台宗務庁（滋賀県大津市）において平成三十年度第二回「一隅を照らす運動」理事会が開催された。本理事会において、「一隅を照らす運動」発足五十周年記念式典等の開催期日変更について審議・承認された。

また、今回の理事会において役員の改選があり、報告された。

【理事】

浦井　正明師　東京教区　現龍院前住職：再任

木村　孝英師　滋賀教区　慈音院住職：新任

・第三回理事会

平成三十一年一月三十一日、天台宗務庁において平成三十年度第三回「一隅を照らす運動」理事会が開催され、平成三十一年度一隅を照らす運動の事業計画、各会計の予算等が審議・承認された。さらに、平成三十一年度に祥当年を迎える運動発足五十周年の関連事業について各種企画の概要が報告された。

また、任期満了による顧問の推薦があり、承認された。

【顧問】

叡南　覺範師　京都教区　毘沙門堂住職：再任

◎聖エジディオ共同体に支援金を贈呈

平成三十年十月十四日から十六日にかけて、イタリアのボローニャで第三十二回「世界宗教者平和の祈りの集い」が聖エジディオ共同体の主催にて開催された。

一隅を照らす運動総本部では、世界の子どもたちの福祉と教育向上を願って、聖エジディオ共同体へ支援を行っている。

本年も世界宗教者平和の祈りの集いに合わせて、天台宗代表使節団の中村彰恵団長（天台宗議会議長）より、聖エジディオ共同体ア

ジア地域担当部長アゴスティーノ・ジョバニョーリ氏に支援金三十万円を寄託した。

◎公開講座を開催

一隅を照らす運動総本部では平成三十年十月三十日、天台宗務庁大会議室を会場に第十八回一隅を照らす運動公開講座を開催した。

講師に、曹洞宗円通山普門寺副住職の高橋悦堂師を迎え「我を捨て、我を生きる」と題して講演が行われ、一般の方々約三百名が集まった。

高橋師は宮城県栗原市の出身、東日本大震災発生の際には、自身も被災経験を持たれている。災害発生直後には宗派の壁を越え、被害の大きかった沿岸部での支援活動に参加されている。支援の中で、被災された人々の悲しみを目の当たりにするも、その途方もない痛切さに「自分の心が受けとめきれず、何も感じない自分がいた」と語られた。その支援活動の最中、岡部健医師（故人）と出会い「なぜ人が臨終を迎える際、宗教者がそばにいないのか。そういった場でこそ宗教者がいるべきである」との彼の言葉に気付きを得て、最後を迎える人に寄り添う臨床宗教師として歩む覚悟をされた。

その後、師事する岡部医師が病気により余命わずかとなり、高橋師に自身の最後を看取るよう願い、それを最後の教えとされた。その経験を糧として臨床宗教師として活動をされる中で感じた「私に何ができるのかとどれだけ苦悩しようとも、命は生まれた所に帰っていくのみである。私はただそれを自然に任せ、全てを受け入れ寄り添うのみである」と講演の終わりに語られた。

講演終了後には、一隅を照らす運動広報大使の露の団姫師進行のもと、質疑の時間が設けられ、参加者から臨床宗教師としての活動に対する疑問などが寄せられ高橋師は丁寧に答えており、参加者一同充実した面持ちであった。

また会場では、参加された方々に地球救援募金の協力が呼びかけられており、多くの浄財が寄せられていた。

◎ＮＨＫに浄財を寄託

平成三十年十二月十日、「ＮＨＫ歳末たすけあい」及び「ＮＨＫ海外たすけあい」に浄財が寄託された。

寄託式には、ＮＨＫ大津放送局から丘信行局長が来庁され、杜多道雄一隅を照らす運動理事長、小堀光實本運動副理事長から目録が手渡された。歳末たすけあいには、十二月一日に比叡山麓坂本地域で行われた「天台宗全国一斉托鉢」にて寄せられた浄財五十六万一千百十円が、海外たすけあいには、地球救援事務局から五十万円がそれぞれ寄託された。

また、寄託式にあわせて、比叡山幼稚園から園児三名と保護者二名が来庁し、秋に行われたバザーの収益金の一部を丘局長に寄託した。

「ＮＨＫ歳末たすけあい」「ＮＨＫ海外たすけあい」は、国内外の支援が必要な方々のために役立てられる。

◎比叡山高校宗内生が托鉢浄財を寄託

平成三十年十二月十日、比叡山高校の宗内生三名（中島圓乗君二年生、獅子王圓岳君三年生、髙倉悠聖君三年生）と宗内生が寮生活を送る山家寮の長山弘範寮長が来庁し、平成三十年十二月九日に行われた「寒行托鉢」で集まった浄財七万八千五百五十四円を地球救援募金として、一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、宗内生が実践仏教の一環として、大津市仰木地区において毎年行っているもので、黒素絹に手甲、脚絆、網代笠姿に装束を整え、法螺貝を吹きながら家々を行脚した。

◎比叡山中学校が募金を寄託

平成三十年十二月十二日、比叡山中学校ボランティア委員会の代表が来庁し、地球救援協力金として八千九百九十円を森定慈仁一隅を照らす運動総本部長に寄託した。

十月二日・三日に同校の文化祭でボランティア委員会はバザーを開催し、その収益を例年総本部へ寄託している。バザーでは、同校の生徒が持ち寄った品物を販売している。

同校のボランティア委員会はその他にも、募金活動や福祉施設への雑巾の贈呈、坂本周辺の清掃活動など様々な活動に取り組んでいる。

◎三千院門跡が浄財を寄託

平成三十一年一月九日、三千院門跡の穴穂行仁執事長、宇田泰観総務部長が天台宗務庁に来庁し、一隅を照らす運動総本部へ六十九万四百四十五円の浄財を寄託された。

この浄財は、京都市左京区大原の三千院一帯で、平成三十年十二月二十三日に実施された歳末の恒例行事である「托鉢寒行」で集まった浄財で、地球救援事務局の様々な救援活動に役立てられる。

◎叡山学院が托鉢浄財を寄託

平成三十一年一月二十八日、叡山学院生四名（室生幸樹さん総合学科二年、近藤奈孟さん総合学科二年、宮崎実尚さん研究学科一年）が来庁し、平成三十一年一月二十三日に行った托鉢で集まった浄財を一隅を照らす運動総本部に寄託した。

この托鉢は、叡山学院生で組織された「玉泉会」主催の実践仏教の一環で「叡山学院寒行托鉢」として大津市園城寺町の園城寺（三井寺）門前から浜大津周辺にかけて行われている。

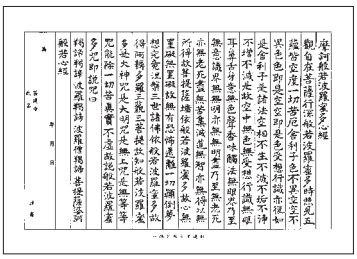
今回は、学生と職員合わせて二十四名が戸別托鉢を行い、八万三千二百一円の浄財が寄せられた。

百萬巻写経運動を推進中

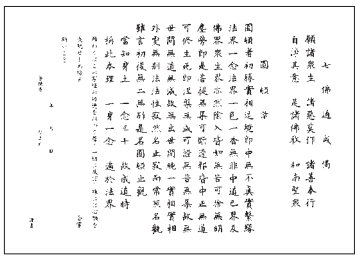
～『写経』のご案内～

一隅を照らす運動では、運動の実践として「写経」の取り組みを推奨し、『百萬巻写経運動』として推進しております。現在、一隅を照らす運動総本部では、『般若心経』、『七仏通戒偈・円頓章』、『山家学生式』の写経用紙をご用意しております。

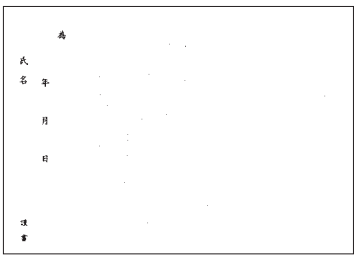
◎写経用紙の種類



1．般若心経



2．七仏通戒偈・円頓章



3．山家学生式

～『写仏』のご紹介～

この度、『百萬巻写経運動』の写経に加え、新たに仏さまのお姿を描き写す『写仏』を製作いたしました。お求めいただける写仏画は、「干支護り仏さまの写仏」８種類と小さなお子さまにも取り組んでいただける、かわいらしい「塗り絵の写仏」４種類がございます。

『写仏』をご希望されます方は、一隅を照らす運動ホームページ等よりお申し込みください。（有料でのご提供になります）

～『ご奉納』について～

一隅を照らす運動総本部では、浄書された写経を「百萬巻写経」として比叡山延暦寺の法華総持院東塔に奉安させていただいております。『写仏』につきましても、「百萬巻写経」の一部として、ご奉納を受け賜りますので、ご希望されます方は、浄書された写経・写仏に志納金（1000円／巻・画）を添えて一隅を照らす運動総本部へお送りください。

皆さまからお預かりしました志納金は、一隅を照らす運動が取り組む様々な支援活動等に活用させていただきます。

写経・写仏を通じ、一隅を照らす運動に参画いただけましたら幸いです。

◎写仏用紙（干支護り仏）　※Ａ３サイズ奉書紙　薄刷りなぞり書き

1．千手観世音菩薩（子歳）

2．虚空蔵菩薩（丑・寅歳）

3．文殊菩薩（卯歳）

4．普賢菩薩（辰・巳歳）

5．勢至菩薩（午歳）

6．大日如来（未・申歳）

7．不動明王（酉歳）

8．阿弥陀如来（亥歳）

◎写仏用紙（塗り絵）　※Ａ４サイズ普通紙　４種一組

1．　おしゃかさま

2．　もんじゅさま

3．　ふげんさま

4．　おふどうさま